#### みんなの家

―揺り籠から墓場までー



### 「あぁ、これ、これだ!」

ある日の気づき

ままでは腑に落ちないものがあった。 それは、漠然として、未だ捉えられないもの 何だろう。 「懐しき未来 (以下「なつさと」)」作りも、

この

だった。

で降りて来たのだ。

しかし突然、具体的で、実に分かりやすい形

ている一風景。 それは、子どもと年寄りが、 一ツ家に暮らし

昔ながらの情景、団欒の姿だった。特別に珍しいことではない。



https://blog.goo.ne.jp/tsyouji5243\_001 「日々是好日・スローライフ」Blog より

1

から』の真実が見えたのだ。 ところがそこに、「なつさと」の核心、『これ

畑に放とう。 子どもを、都会の学校から拾って、山野や田 「子ども農学こう」。

るもの。 だが、何かが足りない。理念だけでない、あ

お母さん、お父さん? どこかの自然教育のカリキュラム? それは、理解ある教師であろうか、それとも、

こでも、はめ込もうとしている。 を据替えねばならなかった。 現代教育の代替えではない、根本的に、 親目線、教師目線、学校目線で、またもやこ

### 二、「学校以前の学校」

同じ空間を共有できる相手。 この結びつき、ペアこそ、世の中を変える起 今、あなたの出番ですョ。 日本人の4人に1人が高齢者。 ズバリ、子どもに、お年寄り。 それは、ゆったりとした同じ時間軸を歩み、

大事なことではなかろうか。 世の中の歯車が狂った原因が分かりますか。 昔は、当たり前にあったことが、今はない。 この最初のスタート地点に戻ることが、最も 「学校以前の家庭学校」こそが、必要だった。

> 昔、「年寄りっ子は三文安い」と言われた。 両親が家業に忙しく、祖父母に預けられ

どころか、百文も安い。 その典型が私だから、確かに甘えタで、三文

魂に染み入るように入って来た。 から、授業では得られない無形の知識や情緒が しかし、信心深い祖母や、樵の祖父の昔語り

な心が育つだろうか。 父母の懐があったなら、どんなにか柔軟で率直 そこに親の躾の厳しさが加わり、逃げ場の祖

ち切れんばかりのエネルギーを孫から与えら 生き切る知恵を、年寄から授かり、老人は、は 子どもは、教科書には書かれていない人生を 明日一日の寿命を延ばす。



こで心を養い、情緒を感じ、人の優しさ が育てられる。 この廻る輪が小さな家庭で自転し、こ

### 三、「みんなの家」

の世に逝く年寄りの死床の現場であっ いつも生死は隣にあり、身近だった。 家は、生まれ来る嬰児の分娩床と、あ 動物の生死、植物の生死、人の生死、

た。 で、人生のありのままを、幼子は見てい 生死が一体になって、家庭の中に棲ん

山川にスッポリ包まれていた。 子どもは、人生の終始を見届け、 里の

語が、「なつさと」で甦るさまが目視で きたのだ。 その時、「揺り籠から墓場まで」の死

「自然分娩」の吉村正医院のような安

心して自力出産できる産院や産婆さん。 日中、畑で遊び、林で遊び、川で遊 **ー イイ。いずれ、猛烈** りたい時に始めれば な向学心に燃える時 ぶ。勉強なんか、や



·ジコラージュ

何式でも自由でイイ。神・佛は問わな

そして恋をして睦み合う。結婚式は、

い。みなの祝福さえあれば、それが一

創的な発明発見が叶う。

が来る。それで充分、ものになる。

独

揺り籠から

墓場まで

りが一緒になって学んで遊べる垣根の ない遊び場だ。これが、中心ゾーンだ。 この一生の中核こそ、子どもと年寄

ところに物は、必ず付いて来る。

そして、やがて後進に託し、枯れる

ように、お迎えに身を任す。

で物々交換もよし、地域通貨もよし、

仕事は、やりたい事をやって、村内

金本位でもよし。たくましく生き抜く

「みんなの家」

たら、どんなに楽しいだろうか、嬉し 娯楽も勉強も団欒も、いつも一緒だっ いだろうか。 野良仕事も、食事支度も卓袱台も、

絶えない。 どもが行き来して、賑やかで笑い声が 「老人ケアホーム」には、いつも子

「逝ってらっしゃい!」と明るく送り そして、最期はみんなで看取り、

となり、一体となる。 出し、樹木葬で遺骨は自然の栄養となり、 記念

から起き出す。 いつもいつもここで生き、ここで眠り、ここ その杜こそ、遺影なのだ。

願いして降ろしてもらったらイイ。 あの世も、この世も一緒くただ。 また、この村に来たくなったら、神さまにお

### 四、 ローカリゼーションとセパ

#### レーシ ョン

生とご一緒した。 3月の一週間ほど、文化人類学者の辻信一先



ーション(地方 者たち。 都会に向かう若 ション(分離)」。 化)とセパレー を捨てるのか、 なぜ、村を町 地方を離れて

る「ローカリゼ 先生の説かれ

齣になってしまう運命。 分業化する都市の歯車、 グローバリズムの一

地方、親と子。 学歴社会と金融世界の仕掛けと罠 ズタズタに切り裂かれた社会の構図、 都市と

その初めが、家族にあったことに気付かされ

世界の分断化の初めが、この家庭にあったの

ではないか。 国家の分離化も、立身出世のために、慎まし

された若者たち。 い田舎暮らしを後にした。 この明治以降の富国強兵、殖産振興で駆り出

だが、150 年経った今の都会に、希望と

落ち込み、食糧難では6、7割方が餓死する。 いう名の若者は消えた。 荒れ果てた邑には、もう老人しかいない。 戦前の完全自給 100%から、今や3%に

家庭が崩壊してしまった。 戦後教育の一辺倒により、家族の絆が絶たれ、 核家族という貧困が、温かい日本の心を奪い、

ての自然を学ぶ場があった。 伝統の繋ぎ手を失った。 三代、四代という大家族の中でこそ、人とし



「子ども農学こう」予定地に立つ、辻信一先生

どもの将来は、やはりバーチャルリアリティ。 クな動きは露ほども見れないだろう。 無尽蔵な大自然のクリエィティブでダイナミッ その頭脳から想念する仮想時空には、無限で ゲームやパソコンに子育てを預けてしまう子

然環境こそ、育みの森であり、学びの教室だっ 混然一体とした家庭環境と混沌一如とした自

しかし、今荒廃の都市か

### 五、3S 政策から3S 開放へ

本人は、本当の痴呆で怠惰な日本人になった。 3S 政策は見事に当たり、75年後、 Screen、Sport、Sexの愚民化・ 戦後、 GHQ(連合国総司令部)に敷かれた 勤勉な日

思うままの操り人 無抵抗は、誰かの 形になってしまっ

され、支配されて いる現状に国民は 何もかもが、侵略 文化もメディアも 政治も経済も、

and Simple J Slow' Small だが、若者は、

「ゆっくり、小

無思考、 無気力、

気付きもしない。

ている。 方」へ、本能帰趨 さく、簡素な生き で舵を切ろうとし

> 楽々、楽しい、楽ちんになる。 く早くと急かさず、ゆっくりとゆっくりと息長 分かち合う。そうすると、ひと言「楽」になる。 ェア、ケェア、シェア」。より公平に、助け合い、 なら、3Sから4Sへ、静かに静かにと、さ く。それに Silent「静かに」を加える 大きいことを望まず、出来るだけ小さく、早

の老子の哲学です。 これが、「なつさと」の日本の心、「小国寡民」

めませんか。 もうそろそろ、 無明長夜の迷いの帳から目覚

## 六、「死に場所」は「生き場所

発展した、という。その教師のお話に、 泉塾」も、主の信仰の奇跡の数々に支えられて もキリスト教信仰に支えられている共同体 同じように、障碍者と生きる余市豊岡の「恵 長沼「メノ・ビレッジ」や新得「共働学舎」

て、みな生き生きと満足に暮らしているのです 瞬く間に寄付金が集まって建ったのです。そし ななくなったんですね(笑)。それで、養老院 ホームケアを建てることにしました。すると を建てました。でも、不思議なことに、みな死 「老人の信者のためにホスピス(死を待つ館)



が始まろうとしている。

いる。

生は言われた。

「懐かしき未来」ZOOM 会議

た。 た同年輩のお客さの顔と顔が思い出されて来 その時、まほろば40年の間、

逝くんだなー、知らない介護士さんに看取られ 皆それぞれに、最期は独りとなり、孤独死で 病院で逝くんだなー、と思われた。



共働学舎 https://www.kyodogakusha.org/

を思わずにはいられなかった。 これは、寂しいことと我が身に代えて、終活

どんなにか安心して、心満たされて逝くだろう か、と思われた。 と看送られたなら、バタバタでもドヤドヤでも、 それよりも、みんなからワイワイ、ガヤガヤ

写真:https://www.kuraso-hokkaido.com/ より

ピンピンコロリで、嬉しいな(笑)!!

「子ども農学こう」だけでは片手落ち。

悲しみと歓びの涙で、心グシャグシャ。 その目が回るほどの忙しさも「いいなー」と 毎日のように、葬儀と出産で「なつさと」は、 いや、一緒くたがいい。 「老人憩いの家」も併設せねば。

光輝いて見えた。

景だろう。 何という生き生きした明るく楽しい生死の風

から迎えられて生まれる。

村のみんなから看取られて逝き、

村のみんな

い共同体だなー、と思いませんか。 見た目は静かな村、中身は賑やかな村、 面白



## 七、見違える老人、若返る晩年

いずれ、誰もが、辿り着く死出の道。どうしようもない老化の現実。日々、衰え行く感性と肉体。

いお顔は美しい。 撮るのが、面白くてしようがない、屈託のな婆さんがいる。21万人越えのフォロワー数。婆さんがいる。21万人越えのフォロワー数。だが、世に自撮り写真でユーモアたっぷり

同じく90歳を過ぎても溌溂としてフィットネスの最高齢インストラクターがいらっしゃる。年齢は、ただ数だけの話。筋肉は、幾つになっても鍛えられて蘇る、と。ピーンとしになっても鍛えで、世界最高齢のスイマー女史が、数百もの記録を塗り替えて106歳で史が、数百もの記録を塗り替えて106歳でを始めた、という。既に、55歳で能楽を初め、を始めた、という。既に、55歳で能楽を初め、を始めた、という。既に、55歳で能楽を初め、きっとなし。

年齢は、

ただの

字だ。

(E) へこ 仕で世にお返ししたい、と。 100 歳からが、なっても学問は始められる、これから社会奉を卒業したという先日のニュース。いくつに9歳の徳島の男性が、17年かけて放送大学

1931年生まれ 91歳



http://photolover555.blog.fc2.com/



https://m.facebook.com/

pg/takimikapoweraging

https://www.chugokunp.co.jp/



https://www.topics.or.jp/

万々歳!である。 改めて、人間に潜む未知の可能性に万歳!

何時でも、誰でも、いかようにも、前向きで何と、人生は豊かで、素晴らしきものか。

野が、降って来る。待っている。望めば、幾つになっても挑戦できる未知の分

G O ! G O !

感謝を忘れない。 しかし、それは、周りのサポートがあっての

玩具箱をひっくり返したような煩さに、耄碌んなの家」はテンヤワンヤの大賑わい。何かに挑戦する後期高齢者に刺激されて、「み

なんかしていられませんヨ!!

台所の厨も大所帯。農産物・加工品の泥臭い売会寺院神社、森林墓まで揃っている。作業場にればプールもある。祈りの瞑想室もあれば、教や音楽ホール。みんなで持ち寄った図書館もあここには、こぢんまりしたスポーツセンター

ストランが素敵だ。

イメージコラージュ

り場もあれば、お洒落なカフェテリアや地場レ



まほろば自然農園の無農薬の原種マッカムを収穫する子供たち

お料理は無論なこと、 んか」と尋ねて来たり…。 たいので、 て着せたり、 かしなくちゃ。 箱をもって申 を買いたい!」 お母さんを見習って作り 存食・発酵食・伝統食も、 て皮を剝いて「お塩をし 着せたり、泥鰌を掬っお裁縫で妹に服を作っ 対応が遅い、 なつさと」の将来 「頼もし お塩ありま い限り! 早く 出 何 7 貯 は 来

る。

満足満足の小さな村が出来上がっちゃって

子が、

土

地

早

速

小学6年生

 $\bar{o}$ 

あ あ、

これだけで、

何処に出かけなくても

安泰、 開かれています。 0) 光に輝き、 日本の未来は希望 再生の 道



#### 八、母系社会へ

昭和45年8月)の舞台にもなった仁木町銀山駅 の真下に「女代神社」が鎮座している。 寅さんの「男はつらいよ」(第五作「望郷篇」、

松の大木が社の横に、静かに聳え立っていた。た時、天然記念物の三本杉が鳥居を前に、神木 その神寂びた風情に、 この雰囲気は醸せない。その真下一直線に、お しまった。国に神社多しといえども、なかなか 「なつさと」のメンバーで、ここに立ち寄っ 一同一遍に好きになって静かに聳え立っていた。





https://kujakunomai.com

寺あり、授産施設の銀山学園あり、そして手放 そうとしている農地があった。

りに行くと、何と神社の横の松の大木 はないか。 が周りの木々と共に伐採されているで 所が、 である。この3月20日にお参

気消沈してしまった。 これには、 大ショックで、 仲間は意

か?」と。 全く、あの何とも言えない佇まいが 「何故、無残にも伐ってしまったの

も風景と印象が違うものか。 遍に消し飛んでしまった。 横の大木が有ると無しとでは、 こう

っている。 周りには、 切り倒された残骸が転が

と密かに念願した。 心が痛み、何とか老木を弔えないか、

並べられている。 松が、不思議にも、 これは、神社、村人氏子の所有である。 どういう訳か、径1mもあるその大 しかし、念ずれば、花は開いた。 我が家の前に今、

野に入っている。

「なつさと」構想には、ここ一帯も視

# がいる。 で大江銀山に屹立するでし これを再生して、「なつ

して村人の善意で、今此処に在る。 その樹を見ると、愛おしくてならない。 これは、仲間の必死の請願と緊急の行動、 「100 年以上もの長い間、ご苦労様でした」 懇ろに供養した。 そ

があっての処置であったとのこと、安堵したこ とは言うまでもない。 聞けば、内芯が腐って、神社が倒壊する恐れ

う、お告げのように感じられた。 がなかった。これは、神事であった。前途を祝 い、ここに神さまが仕向けたとしか、言いよう 樹の精霊が感応道交して、我々の志に寄り添

「高御産巣日神」三柱の中、物事を産み出す大即ち、造化神の「天御中主神」「神皇産霊神」即ち、造化神の「天御中主神」「神皇産霊神」「女代神社」の御祭神は「高御産巣日神」。 本の神さまで在らせられた。

願いそのものである。 これは、願ったり叶ったり、「なつさと」の

更に日本の主神「天照大神」をお迎え

「埴安比賣命」を従えるに、三神ともに女神様し、穀物・食の神「倉稲 魂 命」、土の神 であることが「女代」の名に相応しい。

大国主神と協力して国作りをされたという。更 よう)。これもお祭りする「大己貴命」即ち さな神様(まるで、アイヌのコロポックルの 大橋しのぶ著(まほろばだより 2020 年8月号参照) いるとは!!!(「会津から近江そして倭へ―その10. この「少彦名命」は常世の国から訪れた小 そして、更に「少彦名命」までお祭りして





て下さっていたとは!ありがたくも、勿体なたことが既に、このように神さまがお膳立てし誠に、「懐しき未来」作りで、実現したかっ

でしょう。
ら大いに助っ人して下さることら大いに助っ人して下さることれ療も、神さま軍団が、これか治療も、醸造も、医薬も、温泉

た。
そして、「女代神社」の名に
の「母系社会」を思い起こさせ
たちをみんなで育てる、かつて
ためでいる。これからは子ども

に終止符を打とう。 先に明け暮れた男中心の人類史

うに思われた。こそが、一番平和への近道のよ孫を生み育てる大家族制の運営はサポートに回り、みんなで子はサポートに回り、みんなで子はかった。

こに始まったのです。
「これまでの世の中を切り倒し、新しい世界を生み出せよ」との声なき御声と拝受する。
し、新しいはいない。

